

1. 業務の目的

林業事業体、林業関係団体、市町村、道が連携し、各地域の実情を踏まえて、林業就業者を安定的に確保していくことを目的として、林業関係者及び一般の求職者の実態を調査し、地域が一体となって労働力確保に取り組む支援方法を検討する。

2. 調査対象、項目、調査方法、調査数量

調査対象は、求職者、林業事業体（経営者クラス）、林業事業体の就業者（概ね就業後 5 年以内）とし、求職者は一般の方、森林科学科系の学校（大学、農業高校、専門学校）、専門機関への問合せ者とした。調査項目の主なものは、次のとおりとした。

求職者	<ul style="list-style-type: none"> ・求職者が林業及び林業への就業に対して抱いているイメージとその理由。 ・求職者のうち、林業に興味・関心を持つ人の属性、職業観、職歴、職を探す上で利用している媒体。 ・求職者が林業に就業する、または就業先の候補として選択するために必要となる要素。
林業事業体（経営者）	<ul style="list-style-type: none"> ・林業事業体が行っている採用活動の実態と、採用目標の達成に向けた問題意識。 ・新規参入者の受入体制と、受け入れ体制の構築・充実に向けた問題意識。 ・行政が実施する林業労働力確保や通年雇用に関する施策・助成の普及状況、要望。
林業就業者	<ul style="list-style-type: none"> ・林業への就業を決めた理由、背景。 ・林業労働者が希望する待遇や事業体への要望の把握。

調査方法は、アンケート方式の調査（一部、訪問による聞き取り調査）を実施。

調査数量は、次表のとおりである。

調査区分	箇所等	調査先	配布数	回収数	回収率
求職者 (ハローワーク)	道南圏	函館、江差	110 件	74 件	67%
	道央圏	札幌北、札幌、岩見沢、苫小牧、倶知安、浦河	224 件	116 件	52%
	道北圏	旭川、留萌、稚内	100 件	76 件	76%
	オホーツク圏	北見、網走、紋別、美幌	116 件	81 件	70%
	十勝圏	帯広、池田	141 件	113 件	80%
	釧路・根室圏	釧路、中標津、根室	121 件	78 件	64%
求職者 (教育機関)	森林科学科系を有する教育機関	北海道大学農学部森林科学科	40 件	23 件	58%
		道内農業高校(旭川、帯広、岩見沢)各 80 名	240 件	237 件	99%
		札幌工科専門学校	20 件	14 件	70%
林業事業体、 就業者	道南圏	8 事業体、就業者 16 人	24 件	24 件	100%
	道央圏	8 事業体、就業者 15 人	23 件	23 件	100%
	道北圏	8 事業体、就業者 15 人	23 件	23 件	100%
	オホーツク圏	8 事業体、就業者 14 人	22 件	22 件	100%
	十勝圏	9 事業体、就業者 16 人	25 件	25 件	100%
	釧路・根室圏	9 事業体、就業者 15 人	24 件	24 件	100%
計			1,253 件	953 件	76%

3. 調査結果（全道）

[求職者（ハローワーク調査）] ※全道 20 箇所

【林業のイメージ】

- 一般が持つイメージは「良い」「どちらかと言えば良い」が 37%と、悪いイメージの 3 倍強。
- 良いイメージの理由は、「環境に良い」(36%)、「地域に良い影響がある」(34%)など。
- 悪いイメージの理由は、「つらそう」(30%)、「危険だ」(27%)、「安定していない」(14%)など。

【林業への就業の可能性】

- 「林業に就業したい」「可能性はある」の前向きな回答は 15%、後向きな回答は 57%、「わからない」は 29%。前向きな人の 8 割は男性、後向きな人の 7 割は女性。
- 林業の就業に前向きな理由は、「体を使う仕事が好き」と「自然が大好き」が 27%。
- 後向きな理由は、「林業を知らない」が 38%、「林業に興味がない」が 25%。

【前向きな人の属性】

- 就労希望地域は、「自宅からの通勤圏内」が約 85%で、「転居可能」は 14%。
- 職探し媒体は、「ハローワーク」が 50%、「就職情報サイト」が 18%、「就職情報誌」が 14%。

【林業に就労するために必要となる要素】

- 林業に就業する際の不安点は、「労働環境」が 30%、「雇用形態」が 19%、「就労条件」が 18%。
- 都市域から離れた“林業地域”で生活する不安点は、「住居」21%、「家族の同意」「医療」が 20%ずつ。

[求職者（森林科学科系の学生調査）]

【林業のイメージ】

- 学生が持つイメージは「良い」「どちらかと言えば良い」が 57%で、一般より 20 ポイント高く、良いイメージの理由には、「活気がある」(16%)や「楽しそう」(10%)。

【林業への就業の可能性】

- 「林業に就業したい」「可能性はある」の前向きな回答は 46%、後向きな回答は 34%、「わからない」は 20%。前向きな学生の 54%は高 2 生、後向きな人の 56%は高 3 生。
- 林業の就業に前向きな理由は、「自然が大好き」が 26%、「林業への憧れ」などが 19%。
- 後向きな理由は、「林業が選択肢にない」が 48%、「林業に興味がない」が 26%など。

【前向きな人の属性】

- 男性と女性の割合は 83:17 で男性が多い。就労希望地域は「転居可能」が 60%と、一般の 14%より多数。
- 職探し媒体は、「学校の案内」が 35%、「企業パンフ・ホームページ」と「就職情報サイト」で計 30%。ネット環境を活用している実態。

[林業事業者（経営者）] ※調査対象は全道 50 事業者

【採用活動の実態と採用目標の達成に向けた問題意識】

- 今後の事業量に合わせ、従業員規模を「増やす」が 33%。
- 求人方法は「ハローワーク」が 46%、「人づて」が 31%で、ネット環境を使うのは 7%。
- 問合せを増やすためには、「林業イメージの向上」(32%)、「雇用・就労条件の改善」(24%)、「林業情報の発信」(16%)などの回答。

【新規参入者の受入体制と、その構築・充実に向けた問題意識】

- 採用時に重視するのは、「やる気」が 34%、「健康・体力」が 24%、「年齢」が 18%。
- 職員の定着を促進するための改善は、「給与」が 26%、「事業量確保」が 18%、「就労条件」が 17%。

【林業労働力確保等の行政施策に関する要望等】

- 新規参入者の定着に期待する行政支援は、事業量の安定化・平準化に関するものが 28%、居住関連が 21%、教育・研修関連が 16%、新規就労者への助成が 11%、その他として林業の普及、人材斡旋など。

[林業就業者] ※調査対象者は全道 92 名

【林業への就業を決めた理由、背景】

- 就業のきっかけは、「家族・知人に林業で働いている人がいる」(24%)、「体を使う仕事が好き」(22%)、「周囲の推薦」(14%)。
- 現職場に就く際に重視した条件は、「仕事内容」(33%)、「勤務地」(29%)、「賃金・手当」(20%)。

【林業労働者が希望する待遇や事業者への要望等】

- 通年雇用者は全員が現状を望み、季節雇用者の 65%は他の雇用形態を希望(57%は通年雇用を希望)。
- 職場への要望は、「賃金の改善」(22%)、「より良い人間関係」(21%)、「勤務時間・休暇改善」(14%)。

4. 考察

【雇用条件の検討】

[雇用形態]

- 多くの林業事業体は、冬期の事業量減少を見込み季節雇用を行っているが、一時契約切れの際に、他産業へ流出してしまうことが多いことから、通年雇用として採用すること。
- 林業就業者の半数程度は、現状の年俵に不満足で、年俵が上昇すると通年雇用の割合が増す傾向であり、優秀な人材の安定的な確保や、年俵アップのためにも、通年雇用が望ましいことから、林業事業体の経営を考慮し、労使が十分に意志疎通し理解し合うこと。
- 通年雇用に向けて、冬期の「除雪」や「狩猟」といった他業務と連携すること。

[軽労化]

- 林業就業後の日が浅い者は、重労働である「地拵え」、「植栽」、「下刈り」などを敬遠し、林業機械に乗車する業務を望む傾向があることから、今後、軽労化や機械化を試行すること。

[休日]

- 週休2日制は、就業に前向きな求職者の92%が望むものの、林業事業体の導入は57%にとどまっているのが実態で、運輸業、建設業に次いで、導入率が低いことから、求職者の選択肢から「林業」が外れないように、休日に関する社内規程に配慮すること。

【林業への人材確保に向けて】

[若手層への募集]

- 林業事業体の採用時に重視する「若い年齢」と、林業の就業に前向きな人の割合が高い「学生（特に農高生）」のマッチングが効率的で、さらに「学生」は転居可能な割合が高く、林業地域への移住の可能性があることから、林業事業体は人材確保に向けて積極的な募集を行うこと。

[募集時期]

- 他産業より募集が遅く、思うような人材確保ができていないことから、林業事業体による就職活動解禁日に合わせた募集を強力に実施すること。

5. まとめ（全道）

【林業への人材確保に向けて】

- 林業に前向きな人を就業させるには、一般人は自宅からの通勤圏が効果的で、学生は転居も視野に入れていることから、積極的な募集が必要。
- 林業現場を勉強した学生は若く、授業の効果でやる気が育ちやすいため、積極的に参入を促進することが必要。
- 一般人も学生も求職活動にネットを活用しており、事業体も積極的に活用することが必要。
- 多くの林業を知らない一般人に、就業職種の選択肢に林業を含めるには、林業とはどんな仕事かをPRして知ってもらうことが必要。
- 新規参入者の確保や定着には、様々な行政の支援や事業体とのコラボが必要。

【就業者の雇用形態】

- 就業者は通年雇用を望む傾向が高いため、離職防止には処遇の改善が必要。

1. 調査結果（道南）

[求職者（ハローワーク調査）]※道南2箇所(函館、江差)

【林業のイメージ】

- 一般が持つイメージは「良い」「どちらかと言えば良い」が37%と、比較的悪いイメージの4倍強。
- 良いイメージの理由は、「環境に良い」(44%)、「地域に良い影響がある」(33%)など。
- 悪いイメージの理由は、「危険だ」(40%)、「つらそう」(24%)、「活気がない」「給料が安い」(12%)など。

【林業への就業の可能性】

- 「林業に就業したい」「可能性はある」の前向きな回答は14%、後向きな回答は59%、「わからない」は27%。前向きな人の9割は男性、後向きな人の8割は女性。
- 林業の就業に前向きな理由は、「体を使う仕事が好き」が29%、「自然が大好き」が25%。
- 後向きな理由は、「林業を知らない」が41%、「林業に興味がない」が17%。

【前向きな人の属性】

- 就労希望地域は、「自宅からの通勤圏内」が90%で、「転居可能」は10%。
- 職探し媒体は、「ハローワーク」が45%、「就職情報サイト」が25%、「就職情報誌」が20%。

【林業に就労するために必要となる要素】

- 林業に就業する際の不安点は、「労働環境」が30%、「雇用形態」が22%、「就労条件」が18%。
- 都市域から離れた“林業地域”で生活する不安点は、「家族の同意」22%、「住居」21%、「医療」が17%。

[林業事業者（経営者）]※調査対象は道南8事業者

【採用活動の実態と採用目標の達成に向けた問題意識】

- 今後の事業量に合わせ、従業員規模を「増やす」のはゼロ。「現状維持」が75%、「やや減」が25%。
- 求人方法は「人づて」が49%で、「ハローワーク」が30%、ネット環境を使うのはゼロ。
- 問合せを増やすためには、「雇用・就労条件の改善」(29%)、「林業イメージの向上」「林業情報の発信」(共に22%)などの回答。

【新規参入者の受入体制と、その構築・充実に向けた問題意識】

- 採用時に重視するのは、「健康・体力」「やる気」が共に24%、「経歴」「年齢」が共に16%。
- 職員の定着を促進するための改善は、「事業量確保」が41%、「給与」が24%、「雇用形態改善」が17%。季節雇用者を通年雇用にする。

【林業労働力確保等の行政施策に関する要望等】

- 新規参入者の定着に期待する行政支援は、事業量の安定化・平準化に関するものが80%、新規就労者への助成が20%。

[林業就業者]※調査対象者は道南16名

【林業への就業を決めた理由、背景】

- 就労のきっかけは、「家族・知人に林業」(36%)、「他に仕事がない」(16%)、「周囲の推薦」(13%)、「体を使う仕事が好き」「自然が大好き」(共に12%)。
- 現職場に就く際に重視した条件は、「仕事内容」(33%)、「勤務地」(31%)、「賃金・手当」(23%)。

【林業労働者が希望する待遇や事業者への要望等】

- 通年雇用者は全員が現状を望み、季節雇用者の38%は通年雇用を希望。
- 職場への要望は、「やりがいのある仕事」(25%)、「賃金の改善」「特にない」(共に20%)、「より良い人間関係」(16%)。

2. まとめ（道南の特徴的なところ）

- 従業員を増やす計画のある事業者が少なく、今後、事業量や従業員が減る予定の事業者もあることから、地域林業への影響が懸念。
- 家族・知人を介して、または消去法で林業を選んだ人が多く、地元志向の求職者に声掛けできる地域ネットワークの構築が効果的。
- 林業事業者は、事業量の安定化や平準化に関する行政支援を期待。

1. 調査結果（道央）

[求職者（ハローワーク調査）] ※道央5箇所（札幌北、札幌、岩見沢、倶知安、浦河）

【林業のイメージ】

- 一般が持つイメージは「良い」「どちらかと言えば良い」が44%と、悪いイメージの5倍強。
- 良いイメージの理由は、「地域に良い影響がある」(34%)、「環境に良い」(33%)などの回答。
- 悪いイメージの理由は、「つらそう」(32%)、「危険だ」(28%)、「活気がない」(12%)などの回答。

【林業への就業の可能性】

- 「林業に就業したい」「可能性はある」の前向きな回答は16%、後向きな回答は51%、「わからない」は33%。前向きな人の9割は男性、後向きな人の6割は女性。
- 林業の就業に前向きな理由は、「自然が大好き」が38%、「体を使う仕事が好き」が27%。
- 後向きな理由は、「林業を知らない」が44%、「林業に興味がない」が19%。

【前向きな人の属性】

- 就労希望地域は、「自宅からの通勤圏内」が82%で、「転居可能」は18%。
- 職探し媒体は、「ハローワーク」が55%、「就職情報誌」「就職情報サイト」が16%ずつ。

【林業に就労するために必要となる要素】

- 林業に就業する際の不安点は、「労働環境」が29%、「雇用形態」が20%、「就労条件」が19%。
- “林業地域”で生活する不安点は、「医療」23%、「住居」22%、「家族の同意」16%。

[林業事業者（経営者）] ※調査対象は道央8事業者

【採用活動の実態と採用目標の達成に向けた問題意識】

- 今後の事業量に合わせ、従業員規模を「増やす」が63%。
- 求人方法は「人づて」が38%、「ハローワーク」が33%で、ネット環境を使うのは12%。
- 問合せを増やすためには、「雇用・就労条件の改善」(29%)、「林業イメージの向上」(27%)、「林業情報の発信」(21%)などの回答。

【新規参入者の受入体制と、その構築・充実にに向けた問題意識】

- 採用時に重視するのは、「やる気」が44%、「健康・体力」が23%、「年齢」が19%。
- 職員の定着を促進するための改善は、「人材確保・育成」が27%、「給与」が24%、「就労条件」が22%。

【林業労働力確保等の行政施策に関する要望等】

- 新規参入者の定着に期待する行政支援は、事業量の安定化、補助金制度の改善、新規就労者への助成、研修の充実・補助、人材斡旋、発注単価の増額。

[林業就業者] ※調査対象者は道央15名

【林業への就業を決めた理由、背景】

- 就労のきっかけは、「体を使う仕事が好き」「家族・知人に林業」(22%ずつ)、「林業へのあこがれ」(12%)。
- 現職場に就く際に重視した条件は、「仕事内容」(29%)、「勤務地」(24%)、「賃金・手当」(19%)。

【林業労働者が希望する待遇や事業者への要望等】

- 通年雇用者は9人全員が現状を望み、季節雇用者の5人は4人が通年雇用を、1人は現状を希望。
- 職場への要望は、「より良い人間関係」(21%)、「賃金の改善」(18%)、「福利厚生の実施」(14%)。

2. まとめ（道央の特徴的なところ）

- 従業員を増やす計画のある事業者は道内で最も多く、林業とはどんな仕事をPRして知ってもらうことが重要。
- 転居可能な人が若干多いため、就業者の確保に向けては住宅の確保に対する支援が重要。
- 比較的医療事情に恵まれている地域にもかかわらず、生活上の不安は「医療」が1位であり、過度に不安視している可能性があることから、地域のPR情報発信が必要。
- 従業員の定着に向けた改善策としては、「人材確保・育成」が最も多いことから、積極的な求人と技術者育成が重要。

1. 調査結果（道北）

[求職者（ハローワーク調査）]※道北3箇所（旭川、留萌、稚内）

【林業のイメージ】

- 一般が持つイメージは「良い」「どちらかと言えば良い」が37%と、悪いイメージの4倍強。
- 良いイメージの理由は、「地域に良い影響がある」(32%)、「環境に良い」(31%)など。
- 悪いイメージの理由は、「つらそう」(42%)、「危険だ」(22%)、「安定していない」(19%)など。

【林業への就業の可能性】

- 「可能性はある」の前向きな回答は14%、後向きな回答は52%、「わからない」は34%。前向きな人の9割は男性、後向きな人の7割は女性。
- 林業の就業に前向きな理由は、「将来的な可能性」が29%、「林業への憧れ」が20%、「体を使う仕事が好き」が18%、「家族・知人に林業の人」が12%。
- 後向きな理由は、「林業を知らない」が35%、「林業に興味がない」が23%、「求人がない」が17%。

【前向きな人の属性】

- 就労希望地域は、「自宅からの通勤圏内」が80%で、「転居可能」は20%。
- 職探し媒体は、「ハローワーク」が47%、「就職情報サイト」が21%、「就職情報誌」が11%。

【林業に就労するために必要となる要素】

- 林業に就業する際の不安点は、「労働環境」が27%、「雇用形態」が21%、「就労条件」が17%。
- “林業地域”で生活する不安点は、「家族の同意」が22%、「医療」が20%、「住居」が16%。

[林業事業者（経営者）]※調査対象は道北8事業者

【採用活動の実態と採用目標の達成に向けた問題意識】

- 今後の事業量に合わせ、従業員規模を「増やす」は道内最多で25%(2社)。
- 求人方法は「ハローワーク」が54%、「人づて」が26%で、ネット環境を使うのは7%。
- 問合せを増やすためには、「林業イメージの向上」(36%)、「雇用・就労条件の改善」(26%)、「林業情報の発信」(17%)など。

【新規参入者の受入体制と、その構築・充実にに向けた問題意識】

- 採用時に重視するのは、「やる気」が29%、「健康・体力」が27%、「年齢」が25%。
- 職員の定着を促進するための改善は、「給与」が27%、「事業量確保」「人材確保・育成」が共に18%、「就労条件」が15%。

【林業労働力確保等の行政施策に関する要望等】

- 新規参入者の定着に期待する行政支援は、事業量の安定化に関すること、新規就労者への助成、移住者支援(市町村)、教育機関の設置、普及としての林業CM放映、その他として苗木算定法の改定、宿舍建設の補助など。

[林業就業者]※調査対象者は道北15名

【林業への就業を決めた理由、背景】

- 就労のきっかけは、「体を使う仕事が好き」(31%)、「家族・知人に林業」(23%)、「自然が大好き」(11%)。
- 現職場に就く際に重視した条件は、「勤務地」(34%)、「仕事内容」(28%)、「賃金・手当」(22%)。

【林業労働者が希望する待遇や事業者への要望等】

- 通年雇用者は13人全員が現状を望み、季節雇用者の1人も通年雇用を希望(1人未回答)。
- 職場への要望は、「賃金の改善」(29%)、「より良い人間関係」(21%)、「勤務時間・休暇改善」(18%)。

2. まとめ（道北の特徴的なところ）

- 従業員を増やす計画のある事業者もあり、林業とはどんな仕事かをPRして知ってもらうことが重要。
- 転居が可能とする一般の求職者が比較的多いことから、住宅支援などの転居に関する支援があれば林業への参入が比較的容易。
- 賃金の改善に関する要望が比較的多く、事業者も改善が必要と認識していることから、速やかに実行することが必要。

1. 調査結果（オホーツク）

[求職者（ハローワーク調査）] ※オホーツク 4 箇所（北見、網走、紋別、美幌）

【林業のイメージ】

- 一般が持つイメージは「良い」「どちらかと言えば良い」が 34%と、悪いイメージの 1.7 倍。
- 良いイメージの理由は、「環境に良い」(37%)、「地域に良い影響がある」(32%)など。
- 悪いイメージの理由は、「危険だ」(26%)、「つらそう」(22%)、「給料が安い」(17%)などの回答。

【林業への就業の可能性】

- 「林業に就業したい」「可能性はある」の前向きな回答は 13%、後向きな回答は 61%、「わからない」は 26%。前向きな人の 9 割は男性、後向きな人の 7 割は女性。
- 林業の就業に前向きな理由は、「体を使う仕事が好き」が 35%、「自然が大好き」が 23%。
- 後向きな理由は、「林業を知らない」と「林業に興味がない」が共に 30%。

【前向きな人の属性】

- 就労希望地域は、「自宅からの通勤圏内」が 90%で、「転居可能」は 10%。
- 職探し媒体は、「ハローワーク」が 56%、「知人の案内」が 22%、新聞広告などの「その他」が 11%。

【林業に就労するために必要となる要素】

- 林業に就業する際の不安点は、「労働環境」が 34%、「雇用形態」が 21%、「就労条件」が 20%。
- 都市域から離れた“林業地域”で生活する不安点は、「家族の同意」「住居」が 24%ずつ、「医療」が 19%。

[林業事業者（経営者）] ※調査対象はオホーツク 8 事業者

【採用活動の実態と採用目標の達成に向けた問題意識】

- 今後の事業量に合わせ、従業員規模を「増やす」が 50%。
- 求人方法は「ハローワーク」が 51%、「説明会の開催」が 16%で、ネット環境を使うのは 7%。
- 問合せを増やすためには、「林業イメージの向上」(37%)、「雇用・就労条件の改善」(19%)、「林業情報の発信」「労働・職場・生活環境改善」(13%ずつ)など。

【新規参入者の受入体制と、その構築・充実に向けた問題意識】

- 採用時に重視するのは、「やる気」が 40%、「健康・体力」が 25%、「年齢」が 17%。
- 職員の定着を促進するための改善は、「給与」が 35%、「就労条件」が 18%、「人材確保・育成」が 15%。

【林業労働力確保等の行政施策に関する要望等】

- 新規参入者の定着に期待する行政支援は、事業量の安定化、補助金制度の改善・利用の簡便化、居住関連、新規就労者への助成、森林教育など。

[林業就業者] ※調査対象者はオホーツク 14 名

【林業への就業を決めた理由、背景】

- 就労のきっかけは、「体を使う仕事が好き」(19%)、「自然が大好き」(18%)、「家族・知人に林業」(13%)。
- 現職場に就く際に重視した条件は、「仕事内容」(29%)、「勤務地」(24%)、「賃金・手当」(19%)。

【林業労働者が希望する待遇や事業者への要望等】

- 通年雇用者は 11 人全員が現状を望み、季節雇用者の 2 人%は通年雇用を希望。
- 職場への要望は、「より良い人間関係」「研修制度の充実」(18%ずつ)、「賃金の改善」「昇任・昇給の改善」(16%ずつ)。

2. まとめ（オホーツクの特徴的なところ）

- 林業のイメージは良いとする一般の求職者は多いが、悪いイメージを持つ方も他所より多い(20%)ことから、林業の仕事や役割などを PR して知ってもらうことが重要。
- 従業員を増やす計画のある事業者が 50%と他所よりも多いが、求職者は自宅からの通勤圏内を求めている。
- 求職者は、インターネットよりも、ハローワークや知人の案内、新聞広告等で就業情報を得ている。
- 事業者が望む行政支援は、「住宅の確保」が最も多く、「各種制度利用の簡便化」や「新規就労の助成」も比較的多かった。

1. 調査結果（十勝）

[求職者（ハローワーク調査）]※十勝2箇所（帯広、池田）

【林業のイメージ】

- 一般が持つイメージは「良い」「どちらかと言えば良い」が34%と、悪いイメージの2倍強。
- 良いイメージの理由は、「地域に良い影響がある」(28%)、「環境に良い」(27%)など。
- 悪いイメージの理由は、「つらそう」(36%)、「危険だ」(27%)、「安定していない」(13%)など。

【林業への就業の可能性】

- 「可能性はある」の前向きな回答は18%、後向きな回答は62%、「わからない」は20%。前向きな人の8割は男性、後向きな人の6割は女性。
- 林業の就業に前向きな理由は、「自然が大好き」が30%、「体を使う仕事が好き」が26%。
- 後向きな理由は、「林業を知らない」が39%、「林業に興味がない」が30%。

【前向きな人の属性】

- 就労希望地域は、「自宅からの通勤圏内」が90%で、「転居可能」は10%。
- 職探し媒体は、「ハローワーク」が47%、「就職情報誌」が17%、「就職情報サイト」「知人の案内」が15%。

【林業に就労するために必要となる要素】

- 林業に就業する際の不安点は、「労働環境」が35%、「雇用形態」「就労条件」が15%、「職場環境」「何が不安かわからない」が12%など。
- “林業地域”で生活する不安点は、「住居」21%、「家族の同意」20%、「医療」が19%など。

[林業事業者（経営者）]※調査対象は十勝9事業者

【採用活動の実態と採用目標の達成に向けた問題意識】

- 今後の事業量に合わせ、従業員規模を「増やす」が11%。「かなり減」も11%(道内最多)。
- 求人方法は「ハローワーク」が45%、「人づて」が30%で、ネット環境を使うのは4%。
- 問合せを増やすためには、「林業イメージの向上」(34%)、「雇用・就労条件の改善」(19%)、「林業情報の発信」(17%)など。

【新規参入者の受入体制と、その構築・充実にに向けた問題意識】

- 採用時に重視するのは、「やる気」が31%、「健康・体力」が24%、「年齢」が17%。
- 職員の定着を促進するための改善は、「給与」「人材確保・育成」が20%ずつ、「事業量確保」が18%。

【林業労働力確保等の行政施策に関する要望等】

- 新規参入者の定着に期待する行政支援は、事業量の安定化、補助金制度の改善・利用の簡便化、居住関連、研修の助成、その他として種苗のPR、転居者への地域活動支援など。

[林業就業者]※調査対象者は十勝16名

【林業への就業を決めた理由、背景】

- 就労のきっかけは、「体を使う仕事が好き」(26%)、「周囲の推薦」(24%)、「家族・知人に林業」(19%)。
- 現職場に就く際に重視した条件は、「仕事内容」(34%)、「勤務地」(23%)、「賃金・手当」(18%)。

【林業労働者が希望する待遇や事業者への要望等】

- 通年雇用者は14人全員が現状を望み、季節雇用者の2人全員は通年雇用以外の他の雇用形態を希望。
- 職場への要望は、「より良い人間関係」(25%)、「特にない」(19%)、「勤務時間・休暇改善」(14%)。

2. まとめ（十勝の特徴的なところ）

- 林業のイメージは良いとする一般の求職者は多いが、林業への就業に後向きな回答が60%を超えており、林業の仕事や役割などをPRして知ってもらうことが重要。
- 林業のイメージが「わからない」(15%)や、就業時の不安点が「何が不安かわからない」(12%)など、農業が盛んな地域であることから、林業を想像できない人が多いと考えられる。
- 従業員を増やす計画のある事業者がある一方で、減らす計画のところもあり、事業量の見通しに差異。
- 求職者は、自宅から通勤圏内の職場を求めている。
- 事業者が望む行政支援は、「住宅の確保」が最も多く、「各種制度利用の簡便化」や「新規就労の助成」も比較的多かった。

1. 調査結果（釧路・根室）

[求職者（ハローワーク調査）] ※釧路・根室3箇所（釧路、根室、中標津）

【林業のイメージ】

- 一般が持つイメージは「良い」「どちらかと言えば良い」が35%と、悪いイメージの3倍強。
- 良いイメージの理由は、「地域に良い影響がある」(35%)、「環境に良い」(24%)などの回答。
- 悪いイメージの理由は、「危険だ」(27%)、「つらそう」(23%)、「安定していない」(19%)などの回答。

【林業への就業の可能性】

- 「林業に就業したい」「可能性はある」の前向きな回答は17%、後向きな回答は50%、「わからない」は33%。前向きな人の6割は男性、後向きな人の7割は女性。
- 林業の就業に前向きな理由は、「体を使う仕事が好き」(28%)、「林業の将来性」「仕事がない」が19%。
- 後向きな理由は、「林業を知らない」が40%、「林業に興味がない」が33%など。

【前向きな人の属性】

- 就労希望地域は、「自宅からの通勤圏内」が85%で、「転居可能」は15%。
- 職探し媒体は、「ハローワーク」が52%、「就職情報サイト」が26%、「就職情報誌」が9%。

【林業に就労するために必要となる要素】

- 林業に就業する際の不安点は、「労働環境」が30%、「雇用形態」が19%、「就労条件」が18%。
- “林業地域”で生活する不安点は、「家族の同意」「住居」が21%ずつ、「医療」が12%。

[林業事業者（経営者）] ※調査対象は釧路・根室9事業者

【採用活動の実態と採用目標の達成に向けた問題意識】

- 今後の事業量に合わせ、従業員規模を「増やす」が44%。
- 求人方法は「ハローワーク」が36%、「人づて」が27%で、ネット環境を使うのは7%。
- 問合せを増やすためには、「林業イメージの向上」(32%)、「雇用・就労条件の改善」(30%)、「労働・職場・生活環境改善」「その他」(9%ずつ)などの回答。その他は、作業員の地位向上、適切な設計価格の回答。

【新規参入者の受入体制と、その構築・充実に向けた問題意識】

- 採用時に重視するのは、「やる気」が34%、「健康・体力」が25%、「資格」が17%。
- 職員の定着を促進するための改善は、「給与」が26%、「雇用形態改善」が24%、「就労条件」「事業量確保」が17%ずつ。

【林業労働力確保等の行政施策に関する要望等】

- 新規参入者の定着に期待する行政支援は、事業量の安定化、補助金制度の改善、居住関連、教育機関の設置、研修の充実・補助、発注単価の増額。

[林業就業者] ※調査対象者は釧路・根室15名

【林業への就業を決めた理由、背景】

- 就労のきっかけは、「家族・知人に林業」(31%)、「体を使う仕事が好き」(23%)、「周囲の推薦」(13%)。
- 現職場に就く際に重視した条件は、「仕事内容」(35%)、「勤務地」(31%)、「賃金・手当」(19%)。

【林業労働者が希望する待遇や事業者への要望等】

- 通年雇用者は10人全員が現状を望み、季節雇用者の5人は3人が通年雇用を希望で、2人は現状維持。
- 職場への要望は、「賃金の改善」(36%)、「勤務時間・休暇改善」(21%)、「より良い人間関係」(20%)。

2. まとめ（釧路・根室の特徴的なところ）

- 林業への就業に前向きな求職者は、女性の割合（4割）が他所よりも高い。
- 家族・知人を介して、または消去法で林業を選んだ人が多く、地元志向の求職者に声掛けできる地域ネットワークの構築が効果的。
- 賃金の改善に関する要望が比較的多く、事業者も改善が必要と認識していることから、速やかに実行することが必要。
- 求職者の不安は「住宅の確保」が多く、また、事業者が望む行政支援も「住宅の確保」が多かった。